女郎買の歌

石川啄木

青空文庫

『惡少年を誇稱す
　糜爛せる文明の子』

諸君試みに次に抄録する一節を讀んで見たまへ。

○

しばらくは若い人達の笑聲が室の中にみちて、室の中は蒸すやうになつた。その中に頼んだ壽司とサイダーが運ばれたので、みんな舊の席へかへつた。舊の席に就いて、それから壽司とサイダーを飲み乍らまた談話が開始された。それからそれへといろ〳〵おもしろい話の花が咲く。瓦斯が明るく室中をてらして、かうして若い人達の並んでゐるところを見ると、そゞろに腕の鳴るのを覺える。何か新らしい事業をしたい、新らしい運動、新らしい努力を詩歌壇にやつて見たい……さういふ念が頻りに起つて來る。

『これだけ居れば何でも出來るね』

集つてゐるところをぢつと眺めてゐた△△氏が、感に堪へたやうな聲でかう云ひ出した。期せずして同じ樣な笑聲が皆の口から出た。

『惡少年のかたまりか……』

さう誰かゞ云つた。

『惡少年』

さう誰かゞ應じてまた面白そうに笑ひ出した。

○

これは『創作』といふ短歌專門の雜誌で去月十六日誌友小集を開いた時の記事の一節で同誌八月號に載つてゐるものである。此處に所謂『惡少年』の何を意味するかは嘗て本紙に出た『滿都の惡少年』といふ記事を讀んだ人には直解るに違ひない。人の話に聞くと佛蘭西十九世紀末の頽唐派（デカダン）の詩人共は批評家から彼等はデカダンだと言はれた時、そいつは面白いといふので早速取つて以て自分等の一派の詩風の代名詞にしたとやら、若しそれ等の肉慾の亡者、酒精中毒者の一團が最も尊敬すべき近代的詩人の標本であるならば、この惡少年だと言はれて喜んでゐる日本の若い歌よみ達も大層偉い人達なのかも知れない。

所が同じ雜誌を讀んでゐて記者は驚いて了つた、六十八、九頁に『黄と赤と青の影畫』と題して三十四首の短歌が載つてゐる、作者は近藤元

潮なりの滿ちし遊廓（くるわ）にかろ／〃＼と　われ投げ入れしゴム輪の車

潮なりにいたくおびゆる神經を　しづめかねつゝ女をば待つ

新内の遠く流れてゆきしあと　涙ながして女をおこす

といふやうな歌がある、潮鳴りの滿ちし遊廓といふと先づ洲崎あたりだらう、洲崎！　洲崎！　實にこの歌は洲崎遊廓へ女郎買ひに行つた歌だつたのだ。

寢入りたる女の身をば今一度　思へば夏の夜は白みけり

といふのがある

やはらかきこの心持明け方を　女にそむき一しきり寢る

といふのがある、若し夫れ

空黄色にぼうつと燃(も)ゆる翌朝の　たゆき瞼をとぢてたゝずむ

に至つては何うだ。聞く所によると作者近藤元といふ歌人はまだ下宿住ひをしてゐる廿一二の少年なそうだ、さうして同じ雑誌には又この人の第二歌集『凡ての呼吸』の豫告が出てゐる、其廣告文の中に次のやうな一節がある。

狂ほへる酒に夢みる情緒と、あたゝかき抱擁に微睡む官能とは、時來るや突如として眼覺め、振盪して微妙なる音樂を節奏し、閃めき來つて恍惚たる繪畫を點綴す。

著者は糜爛せる文明が生める不幸兒なり。本書は現實に浮かび出でんとして藻掻きながらも底深くいや沈みゆく著者の苦しき呼吸なり、凡ての呼吸なり。

最も新しき短歌を知らんと欲する人々にこの集を薦む。

糜爛せる文明の不幸兒！　最も新らしき短歌！　プウ！

『現代人の疲勞』といふべきべらんめえ君の一文を讀んだ人は此處に最もよい例を見出したであらう、記者はたゞ記者の驚きを讀者に傳へるまでゞある、次の時代といふものに就いての科學的、組織的考察の自由を奪はれてゐる日本の社會に於ては斯ういふ自滅的、頽唐的なる不健全なる傾向が日一日若い人達の心を侵蝕しつゝあるといふ事を指摘したまでゞある。

（明治43・8・6「東京朝日新聞」）

青空文庫情報

底本：「啄木全集　第十巻」岩波書店
　　1961（昭和36）年8月10日新装第1刷発行
初出：「東京朝日新聞」
　　1910（明治43）年8月6日
入力：蒋龍
校正：小林繁雄
2009年8月11日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

女郎買の歌

石川啄木

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/